

日本地球電気磁気学会会報 (第114号)

1987年1月28日

日本地球電気磁気学会

東京都文京区弥生2-4-16

学会センタービル

(財)日本学会事務センター内

電話 (03) 815-1903

I 学会役員投票結果報告

昭和61年12月に行われた選挙の結果、第14期役員は次の方々に決まりました。

会長 木村 磐 根 (京大工) 67票

(次点) 大 家 寛 (東北大理) 24)

(投票総数 193通, 有効票数 193票)

評 議 員

(10名)

西 田 篤 弘 (宇宙研)	137票
松 浦 延 夫 (電波研)	121票
杉 浦 正 久 (京大理)	114票
安 川 克 己 (神大理)	100票
大 家 寛 (東北大理)	94票
加 藤 進 (京大超高層)	79票
中 沢 清 (東大理)	76票
若 井 登 (東海大)	68票
行 武 毅 (東大理)	68票
小 嶋 稔 (東大理)	前会長

(次点)

大 林 辰 蔵 (宇宙研) 54票

(投票総数 193通, 有効票数 1737票)

運 営 委 員

(14名)

松 本 紘 (京大超高層)	125票
深 尾 昌一郎 (京大超高層)	107票
柳 沢 正 久 (宇宙研)	86票
向 井 利 典 (宇宙研)	84票
乙 藤 洋一郎 (神大理)	78票
福 西 浩 (東北大理)	77票
山 越 和 雄 (東大宇宙線研)	77票
田 中 義 人 (名大空電研)	76票
本 蔵 義 守 (東工大理)	75票
近 藤 豊 (名大空電研)	72票
鳥 居 雅 之 (京大理)	71票
住 友 則 彦 (京大教養)	65票
河 野 長 (東工大理)	65票
鶴 田 浩一郎 (宇宙研)	64票

(次点)

新 妻 信 明 (静大理) 62票

(投票総数 193通, 有効票数 2702票)

II 会長就任挨拶

木村 馨 根

この度の役員選挙で私が会長に選出され、1月9日付けをもって就任させていただくことになりました。昨年秋の総会で学会名の改称が決議された直後だけに、この学会にとって大変重大な時期でもあり、非力な私が十分お役に立てるかどうかわかりませんが、多数の会員諸氏の御支援に報いる為にも、この役目を全力をもって果たさなければならないと思っております。どうか御指導御鞭撻の程お願い致します。なお、新役員の任期は本年4月からと思っておりましたが、これ迄から選挙後の運営委員会で新旧役員の引継ぎを行い新年度春の学会の計画は新運営委員会でを行うという慣例となっているため、去る1月9日の運営委員会で正式に新旧運営委員の引継ぎが行われました。従ってそのときをもって新役員の任期が始まることと致しました。会則では役員の任期を2年と規定しているだけで何時から何時までとは規定されておりませんが、今後はこの様にすることが実際的と思われるので、会員諸氏の御了承をお願い致します。

御承知のように、長年懸案になっておりました学会名問題に対して、前期小嶋会長及び学会名称検討委員会委員の方々の大変な御努力が実って、本年4月から「地球電磁気・地球惑星圏学会(Society of Geomagnetism, Earth, Planetary and Space Sciences (SGEPSS))」と改称されることになりました。学会創設(1947年)以来今年で丁度40年、立派な先輩諸氏の営々と築いてこられた輝かしい業績と伝統を大切に、またこの学会の特徴を十分発揮させた上で、出来るだけ新しい分野の研究をもエンカレッジ出来るよう上記の名前が採択されたと理解しております。また、学会名を変えただけでなく、春秋の講演会のあり方や、学会の運営の仕方などについても、この機会に積極的に見直しが行われるべきであると考えられます。会員諸氏の建設的な御意見・御提案を戴きたいと存じます。また米国地球物理連合(AGU)のForeign SecretaryであるJ.G. Roederer氏より、我々の学会と、もっと緊密な協力関係を持ちたいとの提案が参っており、この具体案の検討も当面の大きな仕事の1つとなると思います。どうか御支援を宜しくお願い致します。

III 運営委員役割

新運営委員の役割分担を次のように決めました。

総務	松本
庶務	深尾
渉外	山越
会計	向井 ^o ・本蔵
JGG	福西・河野
大会プログラム	鳥居 ^o ・住友・田中 ^o ・近藤・松本・深尾

総会講演会	住友・鶴田・乙藤・福西	
名簿	柳沢 ^o ・山越	
広報	山越 ^o ・乙藤・住友・鶴田	(。世話役)

IV 第81回総会ならびに講演会開催のお知らせ

千葉大学のお世話になり下記の通り開催されます。

1. 期 間 昭和62年4月5日(日)～7日(火)
2. 会 場 千葉大学 法・経済学部
3. 講演申込および予稿原稿送り先

地球内部関係は

〒606 京都市左京区北白川追分町
京都大学 理学部地質学鉱物学教室
鳥居 雅之 宛

地球外部関係は(惑星・隕石・太陽系を含む)

〒442 豊川市穂の原3-13
名古屋大学空電研究所
田中 義人 宛

締切り 2月25日(水) 必着

予稿原稿は、同封用紙に黒インキまたはボールペンで丁寧にお書き下さい。用紙がさらに必要な場合は、学会事務センターあてに直接御請求下さい。

4. 今回は特に分野を定めずに約50編の論文発表をポスターで行う予定です。ポスター希望者は申込用紙の右上欄に「ポスター」と朱書きをして下さい。ただし口頭発表を希望しておられてもポスターに廻ることがありますので、予め御了承下さい。口頭発表の場合はプログラム編成上関連セッションが平行になる場合もありますがポスターの場合には平行セッションを行いませんのでお勧めできません。
5. 非会員のみによる講演申込みは受けませんので御注意下さい。なお、論文著者名の先頭(ファースト・オーサー)になれるのは1人1編限りです。ほぼ同じ内容の話をファースト・オーサーだけを取りかえて、複数の論文として申し込むことはおやめ下さい。
6. 講演時間は1講演当り15分(講演12分、質疑応答3分)以内とします。
7. 締切り日を厳守して下さい。締切日以降に到着した申込みは自動的に却下します。電話による申込みや遅延依頼は受けません。
8. 田中館賞候補者推薦および総会議題の申込みは3月7日(土)までに会長宛書面でご提示下さい。

送り先 〒606 京都市左京区吉田本町

京都大学工学部電気工学第二教室 木村 磐根 宛

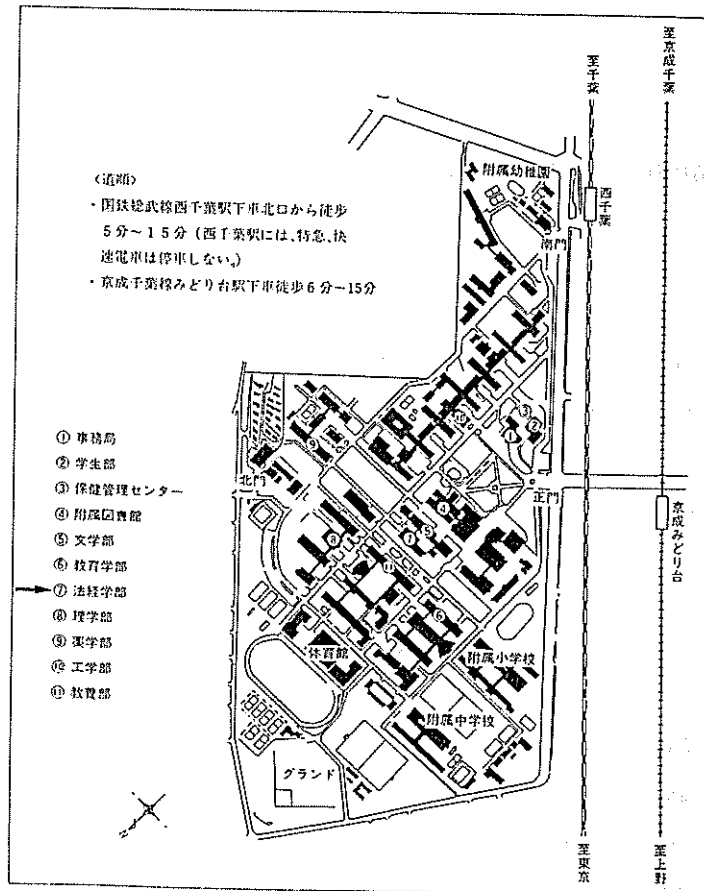
9. 学会終了後4月8日(水)に《1986年伊豆大島噴火》に関するシンポジウムが火山学会、地震学会との共同主催で開かれます。会場は東京大学農学部2号館講堂を予定しています。内容、講演者等に関しては2月中旬までに3学会で相談する予定です。ご意見がありましたら世話人(浜野洋三、笹井洋一、本蔵義守)までお願いします。

V 第81回総会ならびに講演会の会場案内

千葉大学 法・経済学部

〒260 千葉市弥生町1番33号

(会場案内図)



VI 新入会員

運営委員会で次の5名の入会が承認されました。

- 小 嶋 美都子 (東大物性研)
- 岡 田 誠 (静岡大理)
- 長 屋 好 治 (海上保安庁水路部)
- 中 西 正 男 (東大海洋研) *
- 石 川 良 宣 (東大地震)

* 学生会員

VII 奨励金応募案内

朝日学術奨励金 締切り 62年2月末日

申請書類については、深尾運営委員(京大超高層(0774)32-3111 内線3352)に
お問い合わせ下さい。

VIII 共同利用研究課題の公募

京都大学超高層電波研究センターから下記2件の公募要項が発表されています。

1. 昭和62年度前期(62年4月~62年9月)共同利用研究

共同利用研究の中心的設備となるMUレーダーは我国最初の中層・超高層大気観測用VHF帯大型レーダーです。同レーダーは送信周波数46.5 MHz, 尖頭送信出力1 MWのモノスタティック・パルスドップラーレーダであり, 475本の直交三素子八木アンテナとその各々に接続された固体送受信機によるアクティブ・フェーズドアレイを構成しています。この方式を用いることによって, 高速度のアンテナビーム走査やアンテナの分割使用といった, 従来の大型レーダーにない自由な使用が可能となっています。

現在は高度2~25 kmの対流圏・下部成層圏, 高度60~90 kmの中間圏及び高度100~500 kmの電離圏領域の観測が主に行われています。他に共同利用に供される設備としてはアイオノゾンデ, 二周波レーダー, ラジオゾンデ等があります。

2. 昭和62年度電算機利用の共同研究

(1) 分野

- (a) MUレーダー観測データ解析
- (b) 超高層及び中層大気に関する電波観測並びにこれに関連する研究

いずれも本センターの独自性を生かし, 共同利用が有効に促進されるべき内容でなければなりません。

(2) 種 別

次の二つの種別があり、1課題で両方の利用を申請することも可能です。

- (a) 京都大学大型計算機センター利用
- (b) 本センターミニコンピュータシステムS-3500利用

(3) 利用期間

- 京都大学大型計算機センター
昭和62年4月～12月末
- 本センターミニコンピュータシステムS-3500
昭和62年4月～昭和63年2月末

1, 2 いずれについても

応募資格

申請者は、教授、助教授、講師及び助手（他省庁等については相当職の研究者）に限ります。利用を希望される方は、下記に申請書類等が用意されていますので御問い合わせ下さい。なお、今回の締切りは昭和62年2月16日ですので御留意下さい。

〒611 京都府宇治市五ヶ庄
京都大学超高層電波研究センター事務室
TEL. 0774-32-3111
(内線 3330)

IX 追 記

御承知の通り、本年4月より日本地球電気磁気学会は「地球電磁気・地球惑星圏学会」と改称されます。現学会名で会報をお届けするのは今回の第114号をもって最後になる予定です。第115号会報からは新学会名で装いも新たに内容もより充実したものにしている予定です。しかし運営委員会の努力もさることながら、会員各位の御協力がなければとてもやれるものではありません。是非とも役に立つ情報（シンポジウム、国際会議案内等も）、面白い記事、御意見、等の御寄稿をお願い致します。